

2025年度春季入学

弘前大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）入学試験〔第2期〕

入学試験問題

試験科目名

日本史

二〇二五年度春季入学【第二期募集】

弘前大学大学院人文社会科学研究所(修士課程)学力検査(専門科目・日本史)試験問題

(配点二〇〇点)

※解答用紙には設問番号を明記して回答すること。

【設問一】

(各二〇点×五 計一〇〇点)

次の(1)～(8)の中から五つを選び、それぞれ二～三行程度で説明しなさい。

- (1) 「自然未聞記」 (2) 飢餓移出 (3) お救小屋 (4) 抜米
- (5) 通(とおり) (6) 穢多 (7) 小水期 (8) 備荒貯蓄

【設問二】

(1) ①一〇点 ②③各二〇点 (2) ①②各一〇点 (3) 三〇点 計一〇〇点)

次の史料は宝暦飢饉に関する「雑書(盛岡藩家老席日記)」の記事である。史料を読んで(1)～(3)に答えなさい。

史料A

一、御領分中去年凶作二付、御城下在々共飢渴之者、貳万三千八百拾七人在之、御救方段々被仰付置候、依之大勢之儀故、一度に御届被仰上候てハ、殊之外夥敷義相聞得、自然一度二被仰上候段、御不審之程難計二付、先此度ハ老万人余と御届可然旨申出候付、御届書左之通、

私領分去年作毛不熟損耗二付、飢渴之者段々在之、当春二付、此節迄凡老万人余御座候、依之右之者共救方申付、手当任置候、此段申上候、被御聞置可被下候、以上

三月七日

御名

史料B

一、先達て度々被仰付候通、近在并遠在ともに此節及飢渴、山林、野道、山道、作場道、往還通二も倒死候者数多在之候得共、取仕廻片付等も不仕、其低差置候様相聞得、他所へ之御外聞共、以之外不宜義二候、畢竟兼て度々被仰付置候ても行届兼候義と相聞得候、飢末之至二候、向後能々申合、往還筋ハ不申及、山道、野道、作場道、山林等二倒死候者在之候ハ、其所へ埋置候様二、平生之様二念を入、急度へ取仕廻不申候とも、埋置屍等取乱し不申様二能々可申付候、勿論、御城下近在之義は先頃も度々段々被仰付置候処、今以御眼障候者も在之、川筋通りともに心を用ひ迷吟味、流し候ても流兼候ハ、其近辺へ取上ケ埋置候様可仕候、此度又々被仰出候間、銘々支配限急度相心得、時々申合、右躰之者無之様為仕、疎二心得不申様可申付旨、

(『盛岡藩家老席日記 雑書』より引用)

- (1) 史料Aの届書は①どこに対して提出されたものか。また史料Aの大線部 〰 に関して、②読み下しを行っただうえて、③解釈しなさい。
- (2) 史料A 史料Bの波線部 〰 に共通して見られる一字空白のことを、古文書学的に①何と称するか。また②それが持つ意味についても答えなさい。
- (3) 史料A 史料Bに共通して読み取れる内容から、盛岡藩の宝暦飢饉対策とはいったいどのようなものであったと考え得るか。史料中の語句を用いながら説明しなさい。

以上